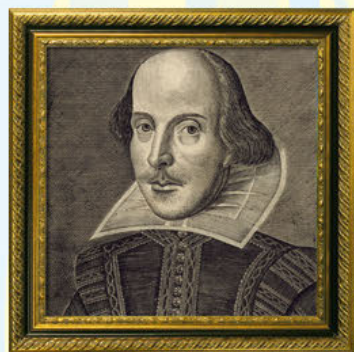


アテネの森で巻き起こる、今と変わらぬ若者たちの「泣きたいぐらい滑稽な」青春コメディミュージカル



ウィリアム・シェイクスピア
William Shakespeare(1564~1616)

喜劇はまるで悲劇のような恋しさをもち、
悲劇はまるで喜劇のような滑稽さをもつ。

シェイクスピアの作品に登場する様々な人物。善人、悪人、恋する人、裏切る人、幸せに酔いしれる人、絶望にもがき苦しむ人、運命の糸に翻弄される人……

それら一人一人の葛藤や喜怒哀楽は、時代の違いこそあれ現代に生きる私たちにとっても大いに共感できるものです。舞台上で繰り広げられるドラマも、一見別世界の絵空事のように見えても、実は現代との共通点を多く発見できるのです。

シェイクスピアの戯曲は、大別すると喜劇と悲劇に分けられますが、どちらにも共通しているのは彼の風刺精神です。「泣きたいぐらいに滑稽」「笑ってしまうほど悲しい」このような世界を構築したシェイクスピアは、物事を見る洞察力、人間を見る観察力、そしてそれをみごとに舞台上で表現してみせる創造力に優れた作家と言えます。

恋の魔法ではじまる喜劇! シェイクスピアはこんなに面白い!



真夏の夜の夢 STORY

舞台は、アテネに程近いアゼンソスの森。月明りに照らされた木々たちのざわめきも話し声も軽やかに聞こえそうな不思議なところ。夜を支配する王オーベロンと、その妃タイターニアは夫婦喧嘩の真っ最中。怒ったオーベロンは、タイターニアにある魔法をかけるように家来である妖精パックに命ずる。それは、眠りから覚めた途端、初めて見た生き物に夢中になって恋焦がれる魔法だった。

時を同じくして、森に二組のカップルが迷い込んできた。本当の愛に気づいていない恋人たちに、オーベロンは再びパックにあの魔法をかけるように命じる。ところが、パックの失敗により夏の一夜は大騒動!果たして恋するもの同士は無事結ばれるのか?

シェイクスピアの喜劇の名作、あなたも夢の世界へ足を踏み入れてみませんか。

1幕14場 上演時間90分(休憩なし)

原作: ウィリアム・シェイクスピア

脚本・演出・振付: 三浦 克也 / 音楽: 大澤 紀彰

出演: シアタージャパン

登場人物 (CAST)

オーベロン…… 夜を支配する情熱の王
タイターニア…… 嫉妬深い妖艶なお妃
パック…… 森の妖精いたずら小僧
ディミートリアス…… ローマの若者
ヘレナ…… ディミートリアスに恋する乙女
ライサンダー…… ハーミアの恋人
ハーミア…… ライサンダーの恋人
ボトム…… 失恋続きの若者

多彩なミュージカルナンバー (MUSICAL NUMBER)

M1「OVERTURE」

M2「恋の魔法I」

M3「男の立廻」

M4「DANCE/妖艶」

M5「片思い」

M6「タイターニア」

M7「理想の女」

M8「舞い上がる二人」

M9「恋の魔法II」

M10「舞い上がる二人~可愛そうな私」

M11「大騒動前奏曲」

M12「大騒動」

M13「カヴァーティングDANCE」

M14「愛の罠」

M15「ぶるるるMIDNIGHT SUMMER」

M16「一人だけのセレナーデ」

M17「真夏の夜の夢」

M18「タイターニアII」

M19「愛に生きる力」

M20「FINALE/恋の魔法III」

